

平成24年行政事業レビューシート (国土交通省)

事業名	幹線鉄道旅客流動実態調査		担当部局庁	鉄道局		作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	H22/H23		担当課室	施設課		施設課長 潮崎俊也	
会計区分	一般会計		施策名	36 市場・産業関係の統計調査の整備・活用を図る			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	-			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	5年に1度、全国の幹線鉄道の特急列車等を利用した旅客の流動等を調査し、需要予測モデルの構築と予測、費用便益分析等の交通政策や交通施設整備計画など、今後の幹線鉄道に関する政策の分析・検討等を行うための資料を作成すること及び、陸・海・空にわたる総合的な交通体系の整備を進める上で重要な全国旅客純流動調査の基データとして、様々な視点からの幹線旅客流動の実態を明らかにすることを目的とする。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	平成22年秋頃の平日及び休日それぞれ1日、全国の幹線鉄道において、調査員が調査列車の中で旅客に調査票を配布し、旅客が調査票の記入を終わった後に回収する方式で調査を実施し、回収した調査票の集計することで全国の幹線鉄道に係る旅客の流動量、旅客の特性、実勢運賃等の旅客流動の実態に関する総合分析を行い、幹線鉄道の現状把握及び将来の需要予測等の基礎資料となるデータのとりまとめを行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
		当初予算	118	89			
		補正予算	0	0			
		繰越し等	0	0			
	計	118	89				
	執行額		115	88			
執行率(%)		97.7%	98.6%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値(年度)
	本調査は需要予測モデルの構築と予測など、今後の幹線鉄道に関する政策の分析・検討等に必要資料の作成を目的としたものであり、本調査そのものに定量的な成果目標を設定することは困難である。	成果実績	達成度	%			
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	回収した調査票を電子化した原データ ※23年度は回収した調査票の集計・分析を計画	活動実績(当初見込み)			8.1 (8)	— (—)	— (—)
単位当たりコスト	1420(円/1データ)		算出根拠	平成22年度執行額(115百万円) ÷ 原データ数(8.1万枚)			
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由			
	統計調査費等	-	-	第5回幹線鉄道旅客流動実態調査の完了のため。			
	計						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	・全国の幹線鉄道の特急列車等を利用した旅客の流動等を調査し、需要予測モデルの構築と予測、費用便益分析等の交通政策や交通施設整備計画など、今後の幹線鉄道に関する政策の分析・検討等を行う必要があるため、本調査は優先度が高い事業である。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	・企画競争で委託業者を決定しており、支出先の選定は妥当である。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	・成果物は、陸・海・空にわたる総合的な交通体系の整備を進める上で重要な全国旅客純流動調査の基データとして、様々な視点からの幹線旅客流動の実態を明らかにするために活用することとしている。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>今回収集したデータについては、総合的な交通体系の整備を進める上で重要な全国旅客純流動調査の基礎データとして積極的に活用するとともに、次回調査(平成27・28年度)へ向け引き続き競争性のある発注方式を継続していく。</p> <p>【前回の指摘を踏まえた執行上の改善点】 競争性のある発注方式の継続、調査票の回収効率の向上に加え、需要予測の精度向上に資する分析・推計方法の工夫を推進する。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記(過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	—	平成23年行政事業レビュー	0269

※平成23年度実績を記入

資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

国土交通省
88百万円

業務の発注、監督

【企画競争】

A.(株)エイト日本技術開発
88百万円

調査計画立案、調査員の募集・研修、

A.((株)エイト日本技術開発)			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
委託費	計画立案、トリップ抽出、拡大処理、 集計処理、実勢運賃の推定、分析処	88			
計		88	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロッ
 クごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)エイト日本技術開発	計画立案、トリップ抽出、拡大処理、集計処理、実勢運賃の推定、分析処理等	88	企画競争	—
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					